

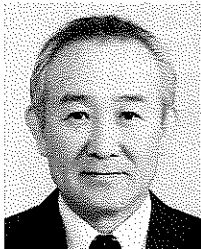
釧路体協だより

第72号

発行 釧路市体育協会
平成29年3月31日

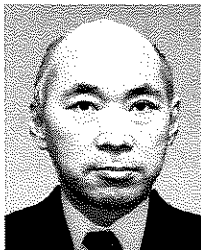
輝かしい功績をたたえ

平成28年度 釧路市スポーツ賞 スポーツ奨励賞



スポーツ賞 故 ^{よこち としみつ}横地 敏光氏 (享年68歳) 【体操 陸上競技】

釧路体操連盟の会長として連盟組織の拡大に取り組みられるとともに、全道・全国規模の大会を積極的に誘致されました。また、北海道体操連盟においても要職を歴任され、釧路市はもとより、北海道における体操競技の発展に大きな足跡を残されました。さらに釧路地方陸上競技協会の副会長はじめ釧路市体育協会副会長、釧路市スポーツ少年団本部長として各競技団体の発展並びにスポーツを通じた青少年の育成にも尽力されました。



スポーツ賞 ^{いわぶち としゆき}岩渕 敏行氏 (65歳) 【スケート】

阿寒スケート協会の会長として協会事業の拡大に取り組みられました。事務局長就任以来、35年以上にわたり円滑な協会運営の原動力となり、スケート競技の普及振興に尽力されました。とりわけ60年の歴史と伝統ある「阿寒スピードスケート選手権大会」はじめ、「日蘭交流400年記念阿寒国際スケートマラソン大会」の実行委員長を務め、卓越した手腕で同大会を成功に導くなどスケート競技を通じた国際交流に大きく貢献されました。

平成28年10月12日(水)、釧路プリンスホテルで釧路市スポーツ賞・釧路市スポーツ奨励賞の授賞式が行われました。スポーツ奨励賞には、全国高校総体(インターハイ)で13年ぶり3回目の優勝を成し遂げた武修館高校アイスホッケーチーム、全日本ユース(U-18)フットサル大会で道内勢初の準優勝に輝いた釧路北陽高校サッカー部の2校が表彰されました。

式辞で山口隆教育委員長は「市民の大きな誇りであり、改めて敬意を表します」と讃えました。受賞者挨拶で横地氏の代理を務めた湯浅氏は「身に余る榮譽と喜んでいる」と思いを代弁。岩渕氏は「阿寒湖のみんなと喜びを分かち合いたい」と語り、笑顔を見せました。武修館高校の徳田滉也主将は「インターハイ連覇を目指して戦う」、釧路北陽高校の高橋海斗選手代表は「子供たちの目標となるよう、全力を尽くしたい」とそれぞれ今後の健闘を力強く誓いました。

日ハム公式戦 釧路開催 8年ぶり 7月25日

昭和58年にオープンし築後33年を数える釧路市民球場は、本年7月下旬には4年間にわたる大規模改修が完了する予定です。

平成26年から進められてきた改修工事は、残すところ人工芝設置、舗装工事、外壁補修塗装のみとなり、完成が楽しみなところです。

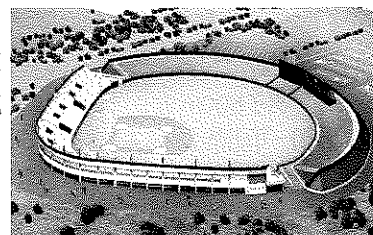
それに伴い、8年ぶりのプロ野球パリーグ公式戦の釧路市開催が決定しました。降雨ノーゲームとなった平成21年以来、選手の移動の負担や施設面の課題を理由に1軍公式戦は開催されませんでした。

市民からの要望を受け、関係者皆様の熱意と粘り強い誘致活動が実を結びました。

期日は7月25日(火)、カードは北海道日本ハムファイターズvs千葉ロッテマリーンズ。

東北以北の屋外球場では初となる全面人工芝であり、リニューアルした釧路市民球場でのプレーボールとなります。

ウィークデーではありますが、夏休みの期間中であり、地元の子供たちが昨年日本一に輝いたチームの超一流プレーを間近で見ることができると喜ばしいことです。



第8回 アジア冬季競技大会(帯広会場)

冬季アジア大会は、アジアの45の国と地域が加盟するアジアオリンピック評議会(OCA)が、アジア地域の冬季スポーツの発展を図ることを目的として開催する総合国際スポーツ大会です。

第8回となる今大会は、平成29年2月19日(日)から26日(日)の8日間、札幌会場ではスキー、スケート(ショートトラック、フィギュア)、バイアスロン、アイスホッケー、カーリング、帯広会場ではスケート(スピードスケート)、合計5競技11種目が実施されました。

釧路市体育協会は2月20日(月)、張江会長を視察団長として総勢25名、スピードスケート競技会場である帯広の森屋内スピードスケート(明治北海道十勝オーバル)で、男子500m、女子1000mの国際レースを観戦しました。



北上ドライバー

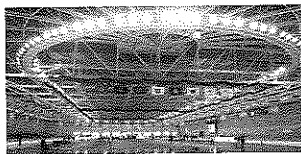


張江視察団団長



狩野コメンテーター

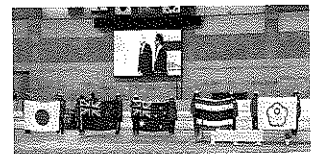
9:15 天候に恵まれた当日、総勢25名の視察団は柳町スピードスケート場から出発。釧路長靴アイスホッケー理事長：北上俊幸氏にはマイクロバスのご提供と往復の運転をしていただきました。バス内では釧路スケート連盟副会長：狩野眞氏から、本大会の経緯や出場有望選手について、さらには釧路スケート連盟の事業や競技力向上に向けた取組に関して解説をいただきました。



競技会場

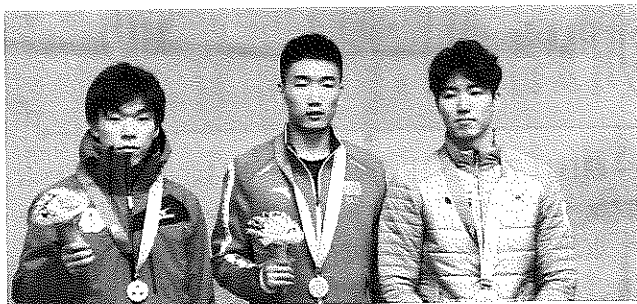


大会看板



国旗入場

13:00 男子500mでは21人が出場し、長谷川翼選手がリンクレコード、大会新記録、アジア新記録の滑りで銀メダルを獲得。18人が出場した女子1000mでは、小平奈緒選手と高木美帆選手がワンツーゴール(金・銀)を決め、大応援に見事応える成績を収めました。大会初日から気焔を吐く日本人選手の活躍に会場は大いに沸き立ちました。



表彰式

LADIES 1000m		1:12.18WR
1	N. KODAIRA JPN	1:15.19 RR
2	M. TAKAGI JPN	1:15.31 RR
3	ZHANG H. CHN	1:15.75 AR
4	LEE S. KOR	1:16.01 AR
0.0		
9 J	18 A. GO JPN	AR
Finish	1:16.19 (5)LAP	30.48
0	20 M. TSUJI JPN	
Finish	1:17.60 (10)LAP	31.83
SEIKO		

電光掲示板



男子500m



女子1000m



観戦風景



競技役員

15:00 国際レベルのスケート競技を目の当たりにした感動の余韻を胸に、第8回アジア冬季競技大会(帯広会場)をあとにしました。競技期間を通じて、日本は金メダル27個、銀21、銅26を合わせ、過去最高の74個のメダルを獲得し、来年の平昌冬季五輪に弾みをつけた大会となりました。

創立70周年を迎えて

鈞路ソフトテニス協会

会長 大日向 勲男



当協会では、毎年2月に、日本代表クラスの選手や全道各地の主要選手を招聘し「北海道たんちょう杯鈞路大会」を開催しており、鈞路の若手代表選手が挑戦し直接肌で日本トップレベルのプレーを体験することにより、地元選手の強化を図っているとあります。

また、前日には招待選手によるジュニアから社会人までを対象としたセミナーも開催し、全体の技術力向上及び普及促進にも力を入れています。

このような取組や選手育成の成果もあり、近年ではジュニアの2名の選手が北海道代表として全国大会に出場を果たす等の成果も出ています。

現在、当協会の登録数は28団体、会員数546名となっておりますが、少子化の影響を受け、部活動を停止する学校などもあり、会員の確保には、小中学生などジュニアへの普及が課題と受け止めています。

平成29年度は、当協会が創立されてから70周年を迎え、式典や記念誌の発行を予定しておりますが、これまでの諸先輩方のご労苦に感謝し、これを一つの節目として、さらに会員一致団結、諸課題に立ち向かい、歴史を繋いでいく決意です。

10月に全日本道予選会

鈞路卓球協会

副理事長 山本 満



当協会は大正11年結成。平成28年度の登録数は、56団体778名。

湿原の風アリーナをホームグラウンドとして、小学生から一般までの各種大会を年10回ほど開催。中でも38回を数える「くしろリーグ」は毎回100チーム・500名を超える人気の大会となっており、今年も夏冬2回の開催を予定しています。また10月7,8,9日には道内で一番大きな大会である「全日本北海道予選会(選手1,000人超参加)」を主管・開催します。

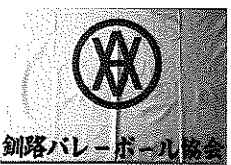
大会以外の事業においても、役員38名4専門部制のもと、「中学生の選手強化(毎月)」、「ちびっ子卓球教室」、「年間ランキング表彰(男女各V8)」、「会員証の発行(マナー、ルール、年間大会日程等の他、自分の目標も掲載)」等を行っていきます。

世界選手権やオリンピックでの日本選手の活躍により、メディアに取り上げられる機会も多く、卓球人気はますます上昇しています。今後も競技としての若い世代の育成強化はもちろん、生涯スポーツとしての普及・指導にも取り組んでいきたいと考えています。

創立70周年を迎えて

鈞路バレーボール協会

会長 木村 芳人



鈞路バレーボール協会

鈞路バレーボール協会は、今年度創立70周年を迎えました。当協会は、小学生から一般、実業団まで69団体、登録人員数821人、有資格者60人を擁し、年間50前後の各種事業を実施しています。

また、当協会は2年前から鈞路ソフトバレーボール連盟と一緒に、活動の裾野を広げました。そのようなこともあり、第22回全国ソフトバレーボールシルバーフェスティバル鈞路大会を開催したところです。

近年では、少子化の影響から競技人口の減少が顕著であり、バレーボールの将来を考えると、最大かつ緊急の課題があります。こうした課題に対して、70周年を迎えた当協会は、さらなる発展のためにも、バレーボールの裾野を広げ、ここ数年来、小学生・中学生・ママさんのチームが全国大会に数多く出場する活躍を見せている現状をもっとアピールし、競技人口の拡大、そして普及活動に力点を置き、協会運営を図ることが急務かつ重要であると考えております。

WJBLの鈞路開催へ

鈞路地区バスケットボール協会

会長 土岐 政人



当協会では、ミニ(小学校)、ジュニア(中学校)、高校、大学、一般と、合計127チーム、2,100人余りが登録し、活動を行っています。

各カテゴリーが年間数回の大会を開催するため会場の確保がなかなか大変な状況ですが、学校の体育館をお借りするなどやり繰りするなかで、なんとか消化している状況です。

今年は通年事業の他に、WJBL(女子の日本リーグ)の鈞路開催を目指して取り組みを進めています。昨年のリオ五輪でも日本女子チームの活躍が報道されましたが、その中心選手でもある鈞路町出身の本川選手の所属するシャンソンのゲームを誘致するため協会の総力を挙げて取り組んでいます。

また、全日本選手権大会の2次ラウンド(東日本ブロック)の鈞路開催も決まっており、レベルの高いゲームを地域の皆さんにも見ていただけるものと期待をしております。

これからも、地区におけるバスケットボールの普及拡大と、競技力の向上に向けてしっかり取り組んでまいります。

第71回 釧路市冬季体育祭総合開会式

第71回釧路市冬季体育祭開会式が11月25日夜、市生涯学習センター多目的ホールで開かれました。12月5日開幕のアイスホッケーから、来年の3月開催のスキーまで5競技約2,500人の選手たちが熱戦を繰り広げました。

開会式では大会長である釧路市教育委員会の林義則教育長は「スポーツによる感動はかけがいのないもの。体育祭のさらなる盛会を期待す

る」とエールを送りました。続いて、大会委員長である釧路市体育協会の張江悌治会長が「釧路は全国屈指の施設が揃っている。「日本の冬のスポーツは釧路にあり」と言われるよう盛り上げていこう」と激励しました。

選手宣誓では、女子アイスホッケーチーム「釧路ベアーズ」の石田理紗主将が「最後まで正々堂々と戦う」と健闘を誓いました。



大会長 挨拶



優勝杯 返還



大会委員長 挨拶



選手 宣誓

釧路市長・市議会へ (12/26)

体育施設の補修、備品整備要請

釧路市体育協会は、新年度予算編成に向け、市内社会体育施設の補修改善や備品配備に関する要望書をまとめ、蝦名市長と畑中市議会副議長に特段のご配慮を要請しました。

加盟14団体から上がった61項目について予算化を求めました。要望の柱として、①湿原の風アリーナ釧路の施設・備品等の整備、②大規模運動公園内体育施設の計画的な補修と更新、③その他の施設の早期改修の3点を掲げ、新規要望は39項目。各加盟団体からの要望事項も合わせて提出しました。

張江会長の「氷都釧路にふさわしい充実した支援を願う」との要望に、蝦名市長は「大会誘致や運営に支障がないよう、進めていきたい」と答えました。



釧路管内体育協会連絡協議会 (11/19~20)

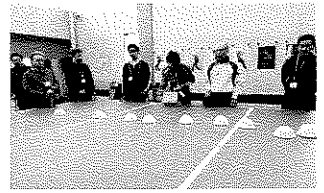
平成28年度 役職員等研修会

釧路管内8市町村の各体育協会で組織する釧路管内体育協会連絡協議会は、白糠町で「役職員等」を開催しました。管内におけるスポーツの振興と連携強化を目的とするこの研修会に、各体育協会の役員ら44名が参加しました。

1日目は、『エリアネットワーク構築による連携事業～北海道らしいスポーツ文化を目指して～』との演題で、NPO法人幕別札内スポーツクラブのクラブマネージャー小田新紀氏の講演。

2日目は、株式会社オカモトの幼児運動指導士の小川祐樹氏による「ストレッチ体操・卓球」の実技演習を行いました。わかりやすい指導で笑顔あふれる研修となりました。

担当地区の白糠町体育協会の皆様の見事な運営ぶりに感謝です。



編集後記

第74回国民体育大会冬季大会(冬季国体)の釧路市開催が実現する。期間は、2019年(平成30年度)年1月下旬に予定▼釧路では9年ぶり4度目となる冬季国体は、全国約1800人の選手団がトップレベルの技術で競い合う。さらに2000人超の役員。その他、5日間の開催期間中の宿泊者、大会ボランティア、観覧者等々、その総人数を想像するだけでも胸躍る▼競技人口減少に悩む種目団体の底辺拡大や、補助金を活用しての老朽化施設の改修にも期待が高まる。まさに、釧路市のスポーツ振興につながる明るい話題である▼釧路市での開催競技は、スピード・シヨートのトトラック・フィギュアスケート、そしてアイスホッケー。柳町スピードスケート場をはじめとし、フル活用される市内のリンク。万全の準備と運営による安全かつ安心をベースに、全てのアスリートが最高のパフォーマンスを発揮し、自己ベストを記録できる大会の実現を目指していくこととなる▼氷都くしろで繰り広げられる水技の祭典。スポーツを「する人」、「観る人」、「支える人」。冬季国体に関わる全ての人が自己ベストを尽くし、一人ひとりが互いを認め合い、そして、未来につなげていく。スポーツの力とは、人とマチと未来を確かに変えていくことである。

